

# 第一〇四回 日本医史学会 総会 演題目次

## 特別講演 (1)

京都帝国大学福岡医科大学から九州帝国大学医科大学への道のり

佐藤 裕……………六

## 特別講演 (2)

伝染病の歴史——疫病から感染症に

酒井 シヅ……………二

## 特別シンポジウム (I)

1 特定領域研究「我が国の科学技術黎明期資料の体系化に関する調査・研究」(略称「江戸モノづくり」)

酒井 シヅ……………四

についての報告……………

月澤美代子・酒井シヅ・ヴォルフガング ミヒエル……………六

2 九州大学医学部所蔵キュンストレーキについて……………

小曾戸洋・町泉寿郎・花輪壽彦……………六

3 橋本龍雲家伝の古医書類……………

友部和弘・町泉寿郎・小曾戸洋・花輪壽彦……………三

4 岡田昌春文庫 (一)——書籍類……………

町泉寿郎・小曾戸洋・花輪壽彦……………三

5 岡田昌春文庫 (二)——書簡類……………

中村輝子・遠藤次郎……………三

6 室町〜江戸時代初期の金瘡書、南蛮流膏葉書、「春林軒膏方便覧」に見られる軟膏の色……………

遠藤次郎・中村輝子……………三

7 江戸時代の金瘡治療における「血」の概念の展開——紅毛流外科と気血水論……………

ヴォルフガング ミヒエル……………三

8 ホーデフリート・ハークと一七世紀の日蘭交流における薬草学について……………

ヴォルフガング ミヒエル……………三

## 特別シンポジウム (II)

1 福岡の蘭学 (医学)……………

奥村 武……………三

2 中津藩蘭学の系譜……………

川 篤 眞 人……………三

3 遠隔と近接……………

ヴォルフガング ミヒエル……………三

## 一般演題

1 一二世紀末のクメール文化圏の施療院……………

石田 純 郎……………三

2 佐藤剛蔵と近代朝鮮医学教育……………

寺 畑 喜 朔……………三

3 魯迅のエッセイ『皇漢医学』について……………

真 柳 誠……………三

4	朝鮮のハンセン病医療に従事した志賀潔	魯	紅梅	四
5	『看病用心抄』の著者について	関根	透	四
6	『風土記』の中の身体に関わる表現	計良吉	則	四
7	薛立齋の排膿に関する概念の考察	西巻明彦	四	四
8	『日本精神科医療史』をかきあげて	岡田靖雄	吾	四
9	第一次世界大戦における陸軍航空医学	黒澤嘉幸	吾	四
10	第二次世界大戦以前における日本の精神医療の評判	橋本明	吾	四
11	『青洲先生療乳癰図記』について——華岡青洲と広瀬屋利兵衛の妻	松本明	吾	四
12	吉益東洞〈親試実験〉の背景としての金瘡——医史的概観	館野正美	吾	四
13	泉屋家文書の外科資料蘭文断簡からわかった本木正栄の医書	相川忠臣・ハルメン	吾	四
14	『黄帝内经明堂類成』と『甲乙経』の比較	木場由衣登	吾	四
15	『素問』『靈枢』中の「滑」「瀉」について	上田善信	吾	四
16	傷寒学を研究する先駆——高若訥	郭秀梅・加藤久幸	吾	四
17	江戸期の義眼史	奥沢康正・広瀬秀	吾	四
18	順天堂大学眼科リハビリテーションクリニックの歴史的意義	高林雅子	吾	四
19	江戸時代の温泉と梅毒	鈴木則子	吾	四
20	中国伝統医学と道教(第二十三回)五石散	吉元昭治	吾	四
21	『素問攷注』に引用される『解体発蒙』についての一考察	竹内尚	吾	四
22	唐以前における妊娠の認識について	吉岡広記	吾	四
23	『脈経』における版本の比較——『脈経』版本字句異同調査報告	中川俊之	吾	四
24	『名家灸選』所収の「試効」の灸法にみる施灸数	鶴田泰平	吾	四
25	近世日本鍼灸史における『阿是要穴』の意義	杉浦雄・篠原孝市	吾	四
26	『玉葉』の鍼灸	寺川華奈	吾	四
27	『鍼灸拔翠』について	宮川隆弘	吾	四

28	『東医宝鑑』の研究——鍼灸編について……………	吉田和裕……………	三〇
29	明石為嗣著「X脚之治験」(明治二十年)について……………	小林晶・奥村武……………	三〇
30	久保記念館と久保猪之吉先生の思い……………	曾田豊……………	三〇
31	貝原益軒(一六三〇—一七一四)の紹介……………	木村專太郎……………	三〇
32	貝原益軒の最後の著書『慎思録』について……………	原敬二郎……………	三〇
33	明治時代に発行された碩田医報……………	山之内卯一……………	三〇
34	中津藩医山辺文伯と産育編について……………	石原力……………	三〇
35	前野良沢(蘭化)の自画像とオランダ馬具について……………	松尾信一……………	三〇
36	緒方洪庵と添田玄春——西洋医学所頭取役宅の新築をめぐる……………	深瀬泰且……………	三〇
37	高野長英の『避疫要法』と看護……………	平尾真智子……………	三〇
38	安中藩主板倉侯の種痘事業……………	清水英一……………	三〇
39	ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究(二)——第三・四対の脳神経を例にとつて……………	坂井建雄……………	三〇
40	コッホのまな弟子、リディア・ラビノウィッチ・ケンプナー教授……………	泉彪之助……………	三〇
41	Thomas WillisのCerebri Anatomieについて——脳神経系を中心に……………	門田永治……………	三〇
42	ガイ病院の創設について……………	柳澤波香……………	三〇
43	十九世紀における血圧測定史……………	藤倉一郎……………	三〇
44	京都・島根ジフテリア予防接種禍についての京都府記録とGHQ文書……………	渡部幹夫……………	三〇
45	GHQによる看護改革の流れ——GHQ看護課・課長G.E. Allに対する協調と対立の構図……………	大石杉乃……………	三〇
46	なぜ日本では「ドナ」を志望する人が少ないのか……………	杉田暉道……………	三〇
47	『日本杏林要覧』(明治四二年刊)に掲載された九州八県下の医師・歯科医師人名……………	樋口輝雄……………	三〇
48	先覚の医界ジャーナリスト山谷徳治郎……………	中山沃・小田皓二……………	三〇
49	ドイツ人外科医ベルテス(一八六九—一九二七)の小伝と北清事変中の業績……………	蒲原宏……………	三〇
50	最古参学校医 船石保太……………	小田皓二……………	三〇
51	神奈川県権令・大江卓の養生布告……………	中西淳朗……………	三〇

52	済生学舎出身の医師三木保長の生涯と東大整形外科教授三木威勇治について	唐 沢 信 安	一三
53	愛知の結核医療史補遺	山田英雄・山内一信・青木国雄	一四
54	統計と医学的な事実——高木兼寛及び脚氣論	ベイ アレキサンダー・花輪壽彦	一四
55	日本における法定伝染病統計の分析一九〇〇—一九六〇(一)	鈴木 晃 仁	一四
56	日本における法定伝染病統計の分析一九〇〇—一九六〇(二)	市 川 智 生	一四
57	日本における法定伝染病統計の分析一九〇〇—一九六〇(三)	永 島 剛	一四
58	日本における法定伝染病統計の分析一九〇〇—一九六〇(四)	平 山 勉	一五

## 《本号の表紙絵》

### 貝原益軒肖像

父は初め黒田家の祐筆役を勤めるも職が定まらず各地に移り住み、益軒2～8歳の間、浪人寛斎は福岡城外の商人町で町医として生計を送るが慶安元年19歳で初めて2代藩主黒田忠之に仕え、御納戸御召料役で4人扶持を賜わる。翌2年藩主の怒りに触れ閑居を命ぜられることもあったが、後に藩主・若様に侍請。また藩士に授講し、3代黒田光之の文治政策の主役を演ずる。

明暦元年、医師を志し剃髪、京都に遊学して儒学者松永尺五らを訪ね、明暦3年儒学者山崎闇斎、萬治元年、儒学者木下順庵の講義に列席。同年はじめて儒医向井玄升に会い、また本草家稲生若水と交遊して薬草の研究をはじめ、更に萬治3年には儒学者伊藤仁斎とも交遊を広くした。

福岡に帰り寛文4年鳥飼に居宅を与えられ、藩士に昇格、知行150石。寛文9年荒津東浜に屋敷を拝領し、この地が終焉の地となる。又元禄9年には別邸（紅葉松原屋敷）を賜わり知行500石。その間、郡村役人・島原の乱に出陣・江戸詰・京都遊学・長崎遊学など多忙をきわめる。

38歳のとき秋月藩士江崎広道の娘初17歳と結婚。延宝3年、幕府薬園を見分し、翌年藩命により書籍購入のため長崎に赴く。天和2年藍島に朝鮮通信使を迎え、同行朝鮮医師に筆談にて生薬の効用を問う。

正徳3年暮、東軒夫人62歳で死去後、益軒は健康を害し、翌年8月27日85歳で死去、福岡・金龍寺に葬る。

著述甚だ多く、藩命による編述する『黒田家譜』『筑前国統風土記』をはじめ、郷土史の類、心身修養の健康医学書『養生訓』、薬学書『大和本草』、教育論『和俗童子訓』など多い。

（奥村 武）